「水の環日記」
水循環を“見える化”するテキストと日記

2012 年 12 月 8 日

福澤諭吉記念文明塾
環境教育プログラム 3 期 C グループ

0. 我々の思い

1) 水を通じて未来の地球環境のことを想いやる人材を育てたい。
2) 水が地球環境における共有財産であることを認識できるようにしたい。
3) 持続可能な水資源を未来の地球環境に残したい。

1. 水を巡る問題の分析

1) 日本における水問題は、インフラ整備と技術の発達によって概ね解決されている。また、水に関する主要インフラである上下水道は地下に埋設されており、実際に外から見えないため、自分の生活と水循環との間にミッシングリンクが存在する。これらの要因により、一般的に水に対する意識は低いと考えられる。
2) 日本と地球環境レベルの水に対する意識にギャップがある。

2. 問題解決方法

1) 私たちの暮らしが属する身近な水循環を「見える化」する。
2) 自分自身がその水循環の一部であることを認識させる。
3) 地球上のいのちを育む水の循環が健全な形で続くよう、私たちに何ができるのか考え、行動するきっかけを与える。

3. 調査

1) 目的

私たちの暮らしが属する身近な水循環を明らかにし、自分たちが水循環の一部であることを意識するために実施した。

2) 方法

水循環を 7 つのステージに分け、それぞれについて現地へ出向き、水がどこから来て、どこへ向かうのかを調査した。

① 水源：奥多摩、柿田川湧水群、福岡市（海水淡水化）
② 河川、湖沼（水源側）：多摩川、玉川上水、滋賀県高島市鈴江地区（針江生水の郷）、琵琶湖
③ 水道水：埼玉県企業局庄和浄水場（春日部市）、東京都水道歴史館、東京都水の科学館

④ 家庭：路地尊（墨田区）、TOTO ショールーム
⑤ 下水処理：東京都下水道局有明水再生センター
⑥ 川（海側）：目黒川、大阪、静岡県三島市源兵衛川
⑦ 海：熊本県水俣市、岩手県釜石市

3) 結果と考察

各ステージがつながっていることを体感するとともに、ステージごとの人との関わり方を知ることができた。現地に赴いて得られたこれらの体験をもとに水循環を伝えるテキストおよび日記の作成を作成した。水循環は人が住む地域であれば、どこにでも存在するものであるため、各地で利用できる汎用性の高い環境教育ツールとして利用できると期待される。

4. 最終ツールについて

1) 「水の環日記（みずのわにっき）」はテキストおよび日記の 2 点から構成される。

・テキスト：水循環の 7 つのカテゴリー別と日本および世界に水問題について記載したテキスト。水循環を構成する各地を訪問する前後の参考資料とし、日記記入の副読本としても利用する。

・日　記：水循環を構成する各地を訪問した後に記入するために利用する。各地を訪問し、記入者の生活が水循環の一部であることを知るために利用する。

2) ワークショップの開催

テキストを用いた事前学習、水循環を構成する地域への訪問、そしてテキストを用いた事後学習によってグループ内での気づきを共有し、グループディスカッションを行い、水循環と参加者の関係やこれからの行動について意見交換を行う。最後に日記に必要事項を記入する。

5. 今後の展望

・ウェブでの発信：

ウェブによるテキスト閲覧を可能にする。テキストのアップデートを行う。

・外国語での発信：

まず英語によるツール（テキストおよびマップ）作成を目標とする。

日本在住外国人の小中学生を対象にしたワークショップを実施する。

以　上